

学術研究論文に係る査読ガイドライン

査読過程は、著者・査読者・編集委員会の協働作業によって成り立っています。お互いを尊重しながら、診療放射線技師としての使命を果たすための学術的価値の高い研究論文の作成を目指して頂きたく、本ガイドラインを作成しました。

次の留意事項を心得た上で、それぞれの役割を自覚して作業を進めて頂きますようお願いいたします。

1. 査読過程の流れ

- ① 投稿された論文は、編集委員会が受付し、査読開始の可否を判断します。査読開始となった場合は、公正かつ適切な査読が可能な査読者2名を編集委員会が指名し、査読を依頼します。
- ② 編集委員会は、査読者による「査読コメント」を総合的に検討し、著者に通知します。
- ③ 著者は再投稿を求められた場合、「査読コメント」を参考に論文を修正・改稿し、指定期日までに再投稿します。この際、「査読者への回答」(任意形式)が添付されます。
- ④ 編集委員会は、著者による「査読者への回答」を検討し、再度査読者に査読を依頼します。なお、2回目以降の査読は初回査読者の2名のうちいずれか1名に依頼します。
- ⑤ 査読は原則初回査読・再査読の2回を限度とし、再査読の「査読結果」が最終判定となります。ただし、編集委員会が必要であると判断した場合はこれに限りません。

2. 査読者としての心得

- ① 査読者に選ばれたということは、当該論文を査読する能力があり、適任者であるとの編集委員会の判断に基づいています。査読者は、論文が持つ価値や可能性の有無についての判断、誤りや問題点の発見、論文の改善のための適切な助言の案出、といった教育的観点から査読作業を行ってください。
- ② 基本的に投稿される論文の研究内容は、著者および共著者のみが理解している新規性のあるものであるため、査読者は謙虚な姿勢で臨んでください。
- ③ 査読にあたっては、どのような修正がなされれば著者の希望する投稿の種類(論文種別)となり得るかを念頭に置いてコメントしてください。論文種別の修正を提案する場合は、その理由を具体的に記載してください。
- ④ 著者および共著者の利益相反(conflict of interest:COI)に問題があると考えたときには、その旨を編集委員会に伝達してください。また、COIのある論文については、そのことを考慮して査読を行ってください。
- ⑤ 公平性を保つため、著者は査読者がわからない仕組みになっており、査読者には論文に関するすべての内容に守秘義務があります。また、著者および共著者本人等に自分が査読していることを教えてはいけません。査読者の匿名性は、査読者を守るためにも存在していることを理解してください。

- ⑥ 査読に関連した不正行為は行わないでください。論文の審査を遅らせて自らの論文作成を優先する、あるいはアイデアを盗む、というような行為は絶対にしないでください。

3. 査読の諾否および査読期間

- ① 査読依頼があった場合は可能な限りお引き受けください。
- ② 査読の期限は厳守してください。
- ・ 編集委員会が査読を依頼する際に、査読者 2 名に対し打診を行います。打診の回答期限は 10 日です。回答期限を過ぎると自動的に「辞退」と判断して打診が取り消されるため、期日内に回答してください。
 - ・ 査読期間は最長で 30 日です。
- ③ 多忙であり期限内に完了できない等の場合には、その理由を編集委員会に向けてコメントし、辞退することもできます。辞退をすることは編集者や著者の時間が節約されることになります。
- ④ やむを得ず査読期限の延長を求める場合は、編集委員会もしくは事務局に連絡をしてください。
- ⑤ 査読の諾否について、査読者が当該論文に関係していないかをご確認の上、関与している場合は辞退を申し出てください。

4. 著者に向けた「査読コメント」について

- ① 論文に誤りがあったとしてもそれは著者の責任であることが大前提です。しかし、査読は良心と善意に基づく行為であるため、研究内容や人間性を極端に否定・攻撃するようなコメントは避け、論文が採択されるために必要とされる教育的な助言を行うよう心掛けてください。
- ② 査読者は原則、追加の実験や検証が必要とされるような大規模な修正意見は出さないでください。また、初回査読で指摘可能であったにも関わらず初回では指摘せず、2 回目以降の査読で指摘するようなことは原則避けてください。ただし、再査読論文が提出された際に、著者によって追加された内容は除きます。
- ③ 修正・改稿は、著者が査読者の指摘を通じ問題点を自覚して修正することが基本です。明らかな誤り以外は、要求事項のような形では述べず、修正の必要性を学問的根拠で示すか、修正の可能性を具体的に例示する等により、自発的な修正を促してください。
- ④ 「著者へのコメント」には、対話的姿勢のもと、著者が最小限の努力で論文を改善できるよう、問題点の指摘や、修正・改稿のための建設的助言等をお書きください。問題点の指摘のみならず、肯定的な面が見出されればそれについても述べることで、著者も「査読コメント」を受け止めやすくなります。
- ⑤ 「査読結果」および「査読者から編集委員へのコメント」には論文の掲載意義や将来性についての率直なご判断をお書きください。なお、「査読者から編集委員へのコメント」の内容は著者に開示されません。
- ⑥ 査読コメントは、原則そのまま著者へ返します。表現に留意するとともに、査読者が特定されるような記述は避けてください。

5. その他

- ① 査読委員への報酬はありません。
- ② 論文投稿システムのログインした後、登録情報の確認をしてください。特に、専門分野は必ず選択してください。右上の氏名の部分にある「登録情報の変更」から修正が可能です。
- ③ 2回目以降の査読は初回査読者の2名のうちいずれか1名に依頼します。従って、2回目の査読時にはもう1名の査読者のコメントと著者からの回答を参照して2回目の査読を行ってください。
- ④ 査読コメントの様式は任意です。システム内に直接文章を書きこむか、マイクロソフトワードやPDF等で作成しファイルをアップロードしてください。
- ⑤ 著者は90日以内に修正稿を投稿しないとシステムで論文が取下げとなります。著者が再投稿の期限を超過する、または辞退、あるいは編集委員会が不採用と判断した場合には再査読の依頼がなくなります。
- ⑥ 採択結果の最終判断は編集委員会にありますのでご了承ください。

以上

2020年12月11日
改正 2024年4月8日